



おばあちゃんの魔法の言葉

最近、菊池桃子さんの結婚が話題になっています。臆病になっている菊池さんの背中を二人の子どもが押してくれたとのこと。微笑ましい話です。

以前、菊池さんの「午後には陽のあたる場所」という本を読んだことがあります。この本を読むまで、菊池さんについてアイドル歌手、女優程度の認識しかありませんでした。菊池さんは、シングルマザーとして二人の子どもを育てる中で、健康な長男と障がいを持ち体の弱い長女を比べ、子どもたちを取り巻く社会構造に疑問や憤りを感じるようになります。そして、「雇用政策」や「キャリア形成」について学ぶため40歳の時に大学院に進学し43歳で修士課程を修了。現在は、芸能界の仕事と両立して大学の客員教授として教鞭をとっておられます。そういった仕事の延長線上に今回の出会いもあったのでしょう。

この本の中に、自分の思い出として「おばあちゃんの魔法の言葉」という文章があります。小さいときからおばあちゃんをよく菊池さんのことを褒めてくれたそうです。

「桃子はよくなってきたね。」

「桃子、前より良くなってきた」

これがおばあちゃんの魔法の言葉だったと言います。宿題をやっていると、笑顔で静かに言います。

「桃子の書く字はきれいになってきたねえ。すごく良くなってきたよ。もっと頑張ったらみんな驚くよ。」

褒められると単純に嬉しかったという菊池さんですが、この褒め言葉の素晴らしい点について、まだ良くなる可能性を示唆していて完成形で褒めているわけではないことだと書いています。今後の成長の余地も感じさせてくれるからこそ、また、褒めてもらおうとやる気にさせられるのだと言います。

ある時、国語のテストの文章問題につまずき、30点台の答案用紙が返却されました。さすがに今日は「良くなってきた」の言葉はでないだろうと思っていると、おばあちゃんは、「桃子、良くなってね。」と言います。その言葉に驚いていると、おばあちゃんは続けました。

「気づいていないのかい？桃子はテストに慣れてきて緊張しなくなったんだよ。慣れて来て、緊張しなくなったところに、人は注意不足から今回のような平凡な失敗をする。でも、緊張がとけてきたのはいいことだよ。テストや試験のときに、緊張は邪魔だからね。緊張しすぎて頭が真っ白になって、何もかけなくなっちゃう人もいるだろう。だから、緊張しなくなった自分をまずは褒めようね。」

他人と比べるのではなく、しかも成長を多様な視点から見つめているおばあちゃん、本当にすごいと思います。正に魔法の言葉です。こんな言葉を毎日かけてもらったらどんな子どもでもやる気が出るのではないのでしょうか。